

# 誰一人取り残さない 情報発信のサイクルを目指して

## 第3回 UDデジタル教科書体の特長



### UDフォントと教科書体

10月号では、ユニバーサルデザイン  
の概念で開発されたUDフォント全般  
について話しました。今回は、そのU  
Dフォントグループの中でも、皆さん  
のとても身近に存在している「UDデ  
ジタル教科書体」にフォーカスします。

このフォントが、行方市の皆さんの  
目に入り始めたのは、2017年のW  
indows10に標準搭載されたところだ  
と思います。ぜひ、ご自宅や職場の  
パソコンのフォントメニューから「UD  
デジタル教科書体N」から始まるフォ  
ントを探してみてください。このフォ  
ントは、デジタル教科書を始めとし、  
近年GIGAスクール構想などでおなじ  
みになった、ICT教育の現場に効果  
的なユニバーサルデザイン書体です。  
学校で習う書き方の方向や点・ハライ  
の形状を保ちながらも、太さの強弱  
を抑え、ロービジョン（弱視）・デイス  
レクシア（読み書き障害）に配慮し  
たデザインで、先生がフェルトペンで丁  
寧に板書したような文字のようです。  
(図1)



図1

### 困難さを乗り越えるきっかけに

近年、日本でもよく話題に上がる  
ようになったディスレクシアとは、文  
字の読み書きに限定した困難さを持  
つ疾患で、文字を認識することが困  
難な学習障害の一つです。特に文  
字を習得する教育時期には、デイス  
レクシアであることが分かった上で教  
育することが重要とされています。  
その教育指導にあたる大阪医科大学  
LDセンターの奥村智人先生の研究  
では、デイスレクシアを含む子ども  
を対象に実証検証し、一般的な教  
科書体より読みやすく、読みの速度  
が改善するという検証結果が出てい  
ます。(図2)

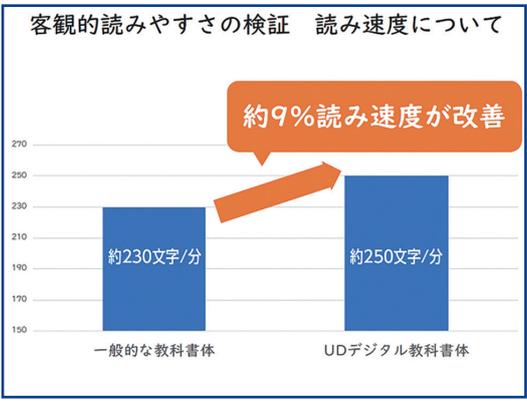


図2

さらに、奈良県生駒市の高橋順  
治先生は、普段より子供達に「今  
までの教科書体」と「UDデジタ  
ル教科書体」で作られたテキスト  
を用意し、どちらで問題を解きた  
いか選ぶというステップを教育課程  
に組んでいます。高橋先生はこのU  
Dフォントを活用し始めてからの教  
育現場の変化についてお伺いしたと  
ころ「自己選択から自己決定のプ  
ロセスを経ることで苦しさ、困難  
さを軽減できる実感を持ってたこと  
だ。」と教えてくれました。文字  
は印刷され変化できないものではな  
く、自分の読みやすいフォントに変  
えられることが、そのほかの困難さ  
を軽減できる経験につながっている

ということなのです。さらに「社  
会的な自立を目指して、自分に必  
要な支援を自ら調達できる能力を、  
身に付けてほしいと思います。自分  
の弱点を自覚し、カバーする方法  
を見つけるために、自分以外の人  
たちに相談できる人になってほしい  
と願っています。」と、思いを語ら  
れていました。この経験は、決し  
て障害を持つ子どもだけではなく、  
成長過程で非常に大切なプロセスで  
す。困難さを乗り越えるきっかけ  
にもなり得るのがフォントであるこ  
とが、教育現場から広がることを  
願っています。

今後、ICT端末での教育が一  
層進む中、誰一人取り残さない教  
育を目指すために、行方市の教育  
用パソコンには、Windows10に  
標準搭載されたフォントの他に、英  
語学習教材に適した欧文書体「U  
Dデジタル教科書体 欧文」、小中  
学校の教材制作に必要な単位や記  
号をそろえた「UDデジタル教科  
書体 学習記号」、国語のひらがな・  
漢字指導に便利な「UDデジタル  
教科書体 筆順フォント」のライ  
ナップを取りそろえています。

編集協力・株式会社モリサワ